

パーソナリティ障害（人格障害）について

「パーソナリティ障害」とは、大多数の人々と異なる行動や反応をしてしまうことで仕事や学業、人付き合いに問題が生じている場合に診断されます。重症度や持続期間は様々でそれぞれ特徴的な問題がみられます。



■ パーソナリティ特性とパーソナリティ障害について

パーソナリティ特性とは、長期にわたって比較的安定している思考、知覚、反応、対人関係パターンのことです。例えば内向的な人がいる一方で、外交的で社交的な人なひともいます。このような性格傾向の違いがパーソナリティ特性となります。

パーソナリティ障害とは、このパーソナリティ特性が顕著で、認知や感情のコントロールなどの精神機能の偏りから仕事や学業、人付き合いに問題が生じている場合に診断されます。パーソナリティ障害は「性格が悪い」といった意味ではなく、このような偏りから生じるものです。

通常ならば周囲に悪い結果を招くようなパーソナリティ特性を持っている人は、状況を改善しようと自分の行動パターンを変えようとします。しかしパーソナリティ障害のある人は行動パターンを変えようとせず、周囲に悪い結果を招いている状況が続く傾向があります。



また、パーソナリティ障害は珍しいものではなく、約 1 割の人が何らかのパーソナリティ障害を持っています。全般的にみて男女差はありませんが、種類によって男女いずれかに多く見られるものもあります。

■ パーソナリティ障害の種類

パーソナリティ障害は 10 種類あり、アメリカ精神医学会の診断基準では概ね A ~ C 群の 3 つのグループに分類されています。(アメリカ精神医学会 DSM-5)

A 群：奇妙、風変わりな振舞をするもの

猜疑性（例：他人が自分を害するのではないかと疑う）
シゾイド（例：他人への過度な無関心）
統合失調型（例：奇妙な思考、知覚や会話）



B 群：演技的、感情的、移り気な行動をするもの

反社会性（例：他人のことや法律を軽視する）
境界性（例：見捨てられる事の恐れや自傷行為）
演技性（例：注目されたいという欲求）
自己愛性（例：誇大性や自分が特別であるという空想）



C 群：不安や恐れを抱いているような行動をするもの

回避性（例：拒絶への恐れ、批判への極度の敏感さ）
依存性（例：過度の服従性、自信、自立心のなさ）
強迫性（例：完全主義）



上記のようにパーソナリティ障害の種類を示しましたが、重症度によっては日常生活で表面化しない場合もあります。また、上記に分類されない特定不能の分類とされるものもあり未知の部分も多い障害です。

■症状の出現について

パーソナリティ障害は、症状が顕在化する時期に幅があり、概ね青年期後期～成人期早期（約 18 ～ 30 代）に現れますが、それより早期の小児期に現れることもあります。

この大半ではこのことが原因で生じる問題は中程度のもので時間経過とともに軽減していきませんが、重度の社会的・心理的な問題を抱え続ける人もいます。

このようにパーソナリティ障害は個人の置かれた環境、性格傾向、遺伝子の相互作用によって起こります。パーソナリティ障害の原因は未だに明らかになっていませんが、一部の人はなりやすい遺伝的傾向を持っていて、それが環境的な要因により抑えられたり強められたりします。

■パーソナリティ障害の発見、診断について

パーソナリティ障害をもつ人の中には自分の行動に悩んで積極的に治療を求める人もいますが、対照的に自分の行動に問題があるということを理解できない人もいます。その場合は友人や家族など周囲の人が医療機関などへ本人を連れていき、そこで診断されることがあります。

パーソナリティ障害は、考え方や感じ方の偏りが影響しており、その偏りによる言動が周りの環境に適応できない場合に表面化します。そのためパーソナリティ障害自体ではなく、それが原因で生じた不安症、うつ病などの精神疾患や、離婚、失業などの問題が表面化したことが理由となり、医療機関や周囲からの相談で治療につながることもあります。



■パーソナリティ障害の治療について

治療はパーソナリティ障害の種類によって異なりますが、精神療法（心理療法）を主としており、具体的には個人精神療法や集団療法などがあります。本人が自ら治療することを希望して、治療に対して意欲的に取り組んでいる場合に効果的となる可能性が高まります。

薬についてはパーソナリティ障害を直接治療するものではありませんが、それに伴う抑うつ不安などの苦痛を和らげ、一定のパーソナリティ特性をコントロールする助けになります。

治療には比較的長期にわたり患者と治療者が協力し続けることが必要になるため、治療者の中でも、経験豊富で、決めつけ思い込みをしない、そして患者の自己像や心の繊細な部分など普段の対処方法を理解することができる専門家を選ぶことが重要になります。

